

いながわ 特派員報告



山本のゆり



田野香織

ト
ラ
イ
し
た
た

ついでのことです。図書館で、病院で、商店やスーパー、あるいは飲食店で、平日の日中に働くジャーナリストや体操服姿の中学生を見かけませんでしたか？今回は私たちの町の「トライやる・ウィーク」で子どもたちの貴重な体験と活動の様子をお伝えします。

松嶋 利泰 教育支援室長

松嶋 平成10年に兵庫県独自の体験活動として、「トライやる・ウィーク」は始まりました。特派員 県の事業なんですか？松嶋 そつです。県下の中学2年生を対象に、様々な事業所でお世話になり、5日間の校外活動を行うという事業です。特派員 5日間とは随分長いように感じますが、その間の生徒や学校、事業所との連携や決まったプログラムはありますか？松嶋 期間中、教師は巡回で様子を見に行く程度です。体験の内容も受け入れ先の事業所にお任せしています。学校や家庭を離れ、社会に身を置く、という得難い体験ですから、子どもたちにも教えられたことを実践するよう形ではなく、「それぞれの受け入れ先で積極的に学びとって欲しい」という期待があります。

子どもたちを地域で育てる

心身の成長著しい思春期の子どもたちは、それだけに自分の変化に翻弄されたり、目の前の課題をこなすのに精一杯だったり、余裕や目標を失いがちです。そんな子どもたちを見守り、心を育み、地域で支えていこうという理念で事業所にも協力いただいている活動なんです。



◆猪名川中学校 道の駅いながわ

新鮮な野菜を袋詰めして売り場に補充したり、つきたてのおもちにあんを入れて丸めたり、買い物かごや店の清掃が主な仕事。男子4人で楽しそつです。特派員 指導員の板本さん、体験中の子どもたちの様子はどんなふうですか？板本さん 今年の子どもたちはとても元気で、頑張ってくれています。でも、最近の子どもたちはおとなしいというか、お行儀いいなあ



もちを丸めた後の片付けもていねいに

と。 いうても中学生なんで、仕事云々より元気で八キ八キ、がいにんじやないかな？特派員 そんな大らかな気持ちで受け入れてくださっているとは。みんな家に帰ったらへとへとじゃない？生徒 はい、やばいです(笑)。特派員 疲れるよね。学校とここと、どちらが楽しい？生徒 こっちーぜつたい!!

5 日 間

◆六瀬中学校 町内ガソリンスタンド

男女1人ずつ、共に剣道部所属のためか、大きな声で「ありがとございました」の挨拶は、指導員の平井さんに負けていません！生徒 人と接するのは難しいですが、色んな人と話せて楽しいです。お客さんに「がんばってー」と言ってもらうこともあります。接客、給油、精算も任されて責任重大ですが、頑張っています。特派員 仕事で「楽しいな」って思うのは？生徒 洗車の後のふきとり(笑)平井さん 接客・給油・精算や洗車など、一通りの業務をしてもらっています。特派員 急ぎのお客さんなどもちがですけど、中学生の子どもたちに接客は大変じゃないですか？平井さん 毎年のことなので、お客さん「ああ、今年もやってくるな」っていう感じで接してくれま



らっています。特派員 トライやる発足当初から受け入れをされているんですね？平井さん トライやるを体験した子が大きくなって、アルバイトに來たり、給油に來てくれたりすることもありますよ。自動車関連企業に就職した子もいます。



◆中谷中学校 町立松尾台幼稚園

子どもが大好きな男子1人と女子3人が、子どもたちと一緒に活動をしていました。製作の手伝いや歌に合わせてのダンス、遊戯室の床の雑巾がけなど、26人の園児たちにやさしい雰囲気で寄り添っていました。最終日には、紙芝居の読み聞かせをしました。トライやるに参加した感想を聞くと、「多くの子どもたちと交流することに興味があつたので、一緒に過ごすだけで自分が笑顔になります」「子どもから手をつないできてくれて、とてもうれしかった」「将来は、子どもの教育に関する仕事に就きたい」などの声があがりました。

た」という生徒も！サッカーが大好きな男の子たちや幼稚園のみんなのために、4人は段ボールと牛乳パックでサッカーゴールを製作してプレゼントしました。



サッカーゴール

初日は緊張したけど、2日目は「クラス全員の名前を覚えま



編集後記 来年に控えたわが子のトライやる体験を密かに恐れていたのですが、子どもたちを囲む温かい眼差しに目からウロコです。

ふおと にゅ〜す

児童虐待防止をPR!



▲6月10日、日生中央駅周辺でこども家庭応援団（川西・猪名川）が児童虐待防止の啓発活動を行いました。これからも地域で子どもや子育て家庭を支援する活動を行っていきます。

健康福祉まつりに1,000人参加



▲6月9日、「2013猪名川町健康福祉まつり」を開催し、歯科検診やウォーキングイベント、土鍋で炊いたご飯の試食、福祉団体のバザーやゲームなどが行われ、介助犬の仕事や訓練内容などもPRされました。
約千人の参加者は、楽しみながら健康チェックを行い、健康、食育、介護や福祉について考える機会となりました。



大規模太陽光発電施設が稼働



▲6月1日、つつじが丘地内の大規模太陽光発電施設が稼働しました。これは、町の遊休地を活用した事業で、事業者は、自転車通学する中学生へのソーラーテールの寄付、小・中学生の環境学習、大規模災害時の非常用電源の供給などの地域貢献を実施される予定です。
発電量は約140世帯分の電気使用量に相当し、二酸化炭素の削減効果は換算して、原油で約17万ℓ、森林面積で約70haになります。

アイガモ田んぼデビュー



▲6月5日、「アイガモ米」の栽培に取り組んでいる岡田光さんが、アイガモ30羽のうち、先発隊の8羽を水田に放鳥しました。この日は、地域で職業体験をする「トライやる・ウィーク」で、中谷中学校の生徒たちも、アイガモの田んぼデビューを手伝いました。
※悲しいことに翌日、アイガモはアライグマにかみ殺されてしまいました。近年ではアライグマによる農作物などの被害が深刻になっています。

出前講座で消費生活のアドバイス



▲5月22日、紫合自治会館で町消費生活相談員による出前講座が開催され、参加者は町の消費生活相談コーナーに寄せられている事例や全国で多く発生している事例について具体的な説明を受け、知識を深めました。

黒メダカが里親のもとに



▲5月26日、町環境住民会議が「メダカの学校2013」を開催し、第三期生（8世帯参加）の里親に町内の黒メダカの遺伝子と飼育方法・増やし方などを説明し、里親へ渡されました。
里親たちは、「家族で大切に育てます」「たくさん増やして返したい」と抱負を語りました。
各里親の家庭で、メダカがたくさん、すくすくと育ちますように!

「モリアオガエル」産卵のピーク



▲空梅雨かと思われた6月下旬、雨を待ち望んでいたかのようにモリアオガエルの産卵が各池で見られました。

町内各地で「ホタル」が乱舞



▲6月の初旬にかけて町内の川べりでホタルが乱舞し、見学者を魅了しました。
また、6月8日にふるさと館で「ほたるのタベ」が開催され、ほたるについての学習会、ミニコンサートなどを約1,200人の参加者が楽しみました。

LED照明に切り替え



▲6月6日より、町役場本庁舎の蛍光灯約430本を、電力消費量の少ないLED蛍光灯への切り替えを始めた。
これにより、節電（光熱費のランニングコストの削減）や有害ごみの排出削減（CO2排出量の削減）などの環境保全対策を進めるとともに、維持経費の削減を目指します。

大切に使おう 猪名川町の水

▼6月1～7日まで町水道庁舎で、町立中学校の生徒が描いた水道週間ポスターの作品33点が展示され、多くの人が鑑賞し、水の大切さを改めて認識しました。

